

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体化

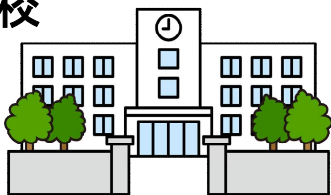
令和6年度 豊後大野市教育委員会

学校と地域は両輪であり、両者がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要である。コミュニティ・スクールの仕組みと地域学校協働活動の様々な取り組みをマッチングさせることで、それぞれが持つ役割が十分に機能し、相乗効果を発揮して「郷土を愛し、つどい、つながり、ふれあい、学びあい、次世代へ未来を拓く、豊後大野の人づくり」をすすめる。

コミュニティ・スクール

(学校運営協議会を設置した学校)

学校



地域とともにある学校づくり

学校運営協議会

学校と保護者、地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図り、地域と一体となって「魅力ある学校づくり」を進めていく。

【効果】

- ・役割の明確化による当事者意識の向上
- ・教育資源の活用による教育の質の向上
- ・学校のプラットフォーム化による地域課題の解決

【役割】

- ・防災活動
- ・通学路
- ・見守り
- 等

協議・熟議の場

地域学校協働活動

学校と地域の
連携・協働が必要

地域学校協働活動推進員
(コーディネーター)

委員として
参画



人材・活動
のコーディネーター

学校と地域がつながる

地域全体で育む
教育の推進

地域学校協働本部

地域



学校を核とした地域づくり

地域学校協働本部

幅広い地域住民や団体等の参画により形成された緩やかなネットワーク。地域学校協働活動推進員を中心とした多様なメンバーで構成される。

【構成員】

- ・自治会、行政機関
- ・PTA、保護者
- ・青少年健全育成市民会議
- 等

【要素】

- ・コーディネート機能
- ・多様な活動
- ・継続的な活動

地域の子どもは、
地域で育てる

実行(実働)の場